

宮城建設発生土リサイクル協組、宮城コンクリ圧送協

大規模路盤陥没災害に備え

防災訓練・復旧デモ施工

宮城県建設発生土リサイクル協同組合（赤坂泰子理事長）と宮城県コンクリート圧送協会（遠藤光一郎会長）は22日、環境施設（仙台市）が保有する松島町の未来リサイクルセンターで、大規模路盤陥没災害時を想定した防災訓練・復旧デモ施工を行った。

建設発生土の有効利用が推進されている中、建設発生土の一つである「流動化処理土」（発生土に固化工と水分などを混合してポンプ圧送などで流し込む）を利用した災害復旧のデモ施工を行うことで、流動化処理土とコンクリート圧送車の有効利用について周知するとともに、訓練を通じて地域全体の防災力向上を目的としている。2023年12月には仙台市、宮城県建設発生土リサイクル協同組合、宮城県コンクリート圧送協会との間で防災協定が締結されている。

当日は、宮城県土木部や仙台市危機管理局・建設局、石巻市、多賀城市などの職員のほか、会員企業から約60人が参加。開会に先立ち遠藤会長は「災害は無いことが一番だが、万が一の時に素早い対応ができるよう協定を結んだ。8年前の博多駅前道路陥没事故では流

動化処理土を流し込んでいる様子



動化処理土が注目を集めた。土とコンクリート圧送車の有効利用を見てもあれば」とあいさつした。

防災訓練・デモ施工に当たっては環境施設の島内雅志取締役部長が、建設発生土による大型土の製作状況を説明。また流動化処理工法の特長として、建設工事発生土を使用していることや空隙充填と強度調整が可能なことなどを紹介した。他材料との比較や注意点も解説した。

デモ施工で参加者は、流動化処理土プラントで製造の様子を見学。ポンプ・圧送車による流動化処理土の打設についても、実際にフロー試験や流し込みの様子、硬化後の様子を見ながら説明を受けた。

赤坂理事長は「より良い土を送り出すため、強度チェックなど試験・調整を行っている。今回の訓練・デモ施工でお互いの仕事内容を理解してもらえたら」

と話し、「もつと皆さまに情報を伝えられるように、継続して開催していきたい」と力を込めた。



フロー試験の様子

県建設発生土リサイクル協同組合 県コンクリート圧送協会

道路陥没の防災訓練

県建設発生土リサイクル協同組合（赤坂泰子理事長）と県コンクリート圧送協会（遠藤光一郎会長）は22日、松島町内で、



赤坂理事長



遠藤会長

大規模な路盤陥没災害時の防災訓練と流動化処理土による復旧デモ施工を実施した。仙台市との災害協定に基づく初の訓練で、相互連携の体制を確認したほか、流動化処理土の有効性を広めようという実演した。

両者と仙台市は昨年12月、博多市で発生した道路陥没事故（16年11月）を教訓に、災害時協定を締結している。中心部で道路陥没が発生した際、流動化処理土の提供とコンクリート圧送車を使った埋め戻しなどを行う。

流動化処理土は、建設発生土と土質な土を提供する団体と土を現地に運び圧送する団体が連携する。

流動化処理土は、建設発生土を使用する。水と固結材のセメントを混ぜ合わせた液状の土で、液状化を防止するほか、狭い空間に充填でき、再掘削できることが最大の利点だ。博多市の道路陥没事故の埋め戻しに使用され、早期復旧につながった。一般的に地盤改良工事などに使用され、仙台市の地下鉄東西線建設工事に採用されている。

防災訓練では、迅速な土の調製のほか、デモ施工と一体で互いの仕事を見ながら連携体制を確認した。実演では、打設

流動化処理土で早期復旧



液状の土が充填される現場を見学する行政の担当者

前に必ず行う品質試験で流動性や強度を確認し、狭い空間でも隙間なく充填される流動化処理土による埋め戻し作業を行った。埋め戻した土の再掘も行われた。

述べた。遠藤会長は「災害復旧には良質な土と圧送車の両方が必要。デモ施工を通じて有効性について理解を深めていただきたい」と話した。

デモ施工には、県土木部、仙台市危機管理局と建設局、石巻市、塩釜市、多賀城市、松島町、利府町から建設部門や防災担当の職員が参加した。松島町の担当者は「現場で発生した建設発生土を再利用でき、締固めが難しい場所、上下水道工事、建物下の空洞化対策として有効性を感じた」と話した。



圧力を調整しながら土を流すポンプ車

赤坂理事長は「互いの仕事を見て理解できる場」として、訓練を総括し、「建設発生土をリサイクルした土があることをもっと知ってほしい」と話した。